



## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

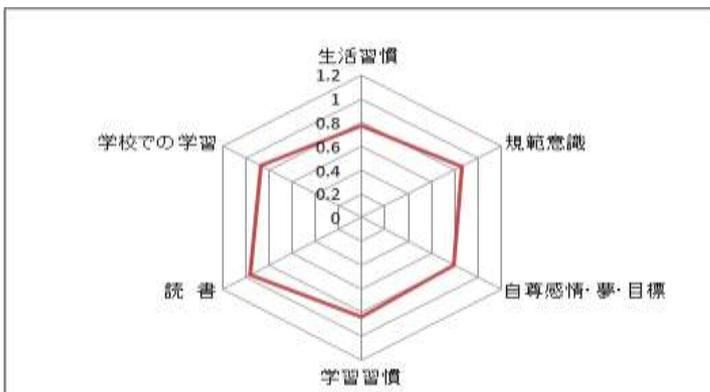
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	学力の状況
国語A	本年度の本校平均正答率は、昨年度の正答率より4ポイント下回っていた。文章を読むことに慣れ、基本的な定着を図る必要がある。まずは、漢字の読み書き、ローマ字の練習等の基本的な学習を繰り返す必要がある。	全国平均正答率との比較
		下回っている
国語B	本年度の本校平均正答率は、昨年度の正答率より7ポイント下回っていた。A問題と同様に、書く力を問う問題に課題がある。書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較
		下回っている
算数A	本年度の本校平均正答率は、昨年度の正答率よりやや下回っていた。四則計算については、本校の正答率は高かったが、割合については、本校の平均正答率は低かった。	全国平均正答率との比較
		下回っている
算数B	本年度の本校平均正答率は、昨年度の正答率より3ポイント下回っていた。解答が記述式である問題に課題がある。どのように書けばよいのかを教え、書いて説明することを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較
		下回っている

### 2 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

○「学校の宿題をしている」児童の割合は9割を超えていたが、「自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は4割程度であった。全校で家庭学習の時間の目安(10分×学年)を示したり、個に応じた家庭学習の量・内容・出し方を工夫したりすることで、家庭学習の習慣を定着させたい。

○「自分には、よいところがあると思う」児童の割合は5割程度であった。自分に自信がなったり、友達のことを気にしている児童が多いことも分かった。担任と児童の人間関係だけでなく、児童相互の人間関係にも目を向け、お互いを認め合う・支え合う学級づくりに努める必要がある。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 授業の質を変える → わかる授業づくり5つのポイントの徹底・若年教員を中心とした校内研修の実施
- 読書タイムの質を変える → 時間いっぱい1冊の本を・活字に慣れ親しむように（学習漫画・図鑑は読まない）
- 朝学習の質を変える → 火：漢字 水：書き書き（または計算）木：MIM・ローマ字 金：音読暗唱 を全校一斉に実施する。 ”

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化 → 自主学习ノートの活用・「書く」ことを習慣化する内容（日記・今日の学習のふりかえり など）
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知 → 学校便りや学校HPで知らせる。
- 小中連携の学力向上の取組 → 中学校の定期考査前の時期に合わせて、家庭学習により一層取り組むように保護者に呼び掛ける。（スタディウィーク）